

ふかまちのまじ

第一〇号 〇三年〇月〇日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 六三三三八二

町内会連合会活動報告

一、定期総会
四月二十九日に開催して、十四年度の行事・決算の報告と十五年年度の行事・予算を承認しました。役員が改選されました。

役員改選結果(任期二年)
会長 西本 一二三
副会長 広川 弘之
(町民会館長)
副会長 秋本 賢治
(体育部長)
事務局長 高崎 修
会計監査 天木 雅之
寺田 重延 榮策
弘

二、体育委員会
五月十日に開催して、定期総会の報告と六月一日の町民運動会の実施計画を決定しました。

三、役員会
五月二十四日に開催。如水館の祝いの掲揚台の設置、交通事故の防止(飲酒)、部活動の推進等について協議しました。

四、町民運動会
六月一日、深小運動会の午後五時、十三種目に延べ約四五〇人の選手が演技を競いました。選手全員に参加賞、来場者全員にジュニアを配りました。

各町内会主要事業(行事)、予算等の概要

項目	上組町内会	中組町内会	下組町内会
平成15年度主要事業	① 中国遊歩道管理作業 ② 親睦会 ③ 町内道路整備	① 23夜行事 ② 親睦会	① とんど祭り ② 総仏法要 ③ 町内環境整備
平成15年度予算(総額)	792,699	2,278,189	1,644,328
平成14年度決算(総額)	982,624	2,004,310	1,510,062
平成15年度執行部等役員	会長 西本一二三 副会長 成末 叔正 向井 和行 監事 林 大宗 柿迫小夜子	会長 広川 弘之 副会長 竹内 博満 坪見 博文 川下 守 谷岡 吉昭 重延 榮策	会長 秋本 賢治 副会長 佳治 洋子 追 谷口 弘 寺田 純子 渡部
備考	会計は副会長の内1名が所掌する	*規約を一部改め、副会長が2名になる *講が1講増える(はるかぜ講)	

深小だより



はじめまして。尾道から福山へ、福山から三原へ。私は、尾道で四校の小学校を経て、福山で三年間勤務し、この四月、深小学校に赴任して参りました。

社会の変化と共に、この二、三年学校教育も急激に変化しています。情報があふれ、さらに新しい環境の中で戸惑うことの多い日々です。

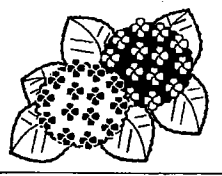
そんな時、私は、作家の井上ひさしの言葉、
『難しいことは易く、易いことは深く、真面目なことは楽しく、楽しいことは真面目』
にいつも救われます。

第五回中興入賞 おめでとうございます



奨励賞(洋画) 林 宗聡さん
奨励賞(写真) 岡村満雄さん
奨励賞(写真) 林 大宗さん

「あーそつだ。今、最も大切なことは何だろう。急ぐことは何なのか。そして、楽しく仕事しなかつたか。」
と決まってるから、
いる私です。
どうぞよろしく
お願いします。



(教頭 東 文子)

五、感謝状の贈呈
六月一日、町民運動会の開会式の時、連合会役員を五年以上継続された次の二人の方に西本会長から贈呈されました。

前連合会会長 梶谷和伸氏
前連合会会計 高崎壽郎氏

六、グランドゴルフ大会
六月一日、運動公園の市主催大会に男女二チーム、役員選手十七名が参加しました。

七、ゲートボール大会
六月一日、運動公園の市主催大会に男子チーム八人が参加、女子チームは選手不足で参加できませんでした。(事務局)

町民会館運営委員会報告

四月二十六日運営委員会を開催して、平成十四年度の利用状況と決算の報告、十五年年度の予算決定と役員改選を実施しました。文化的行事の推進意見がありました。

平成十五年役員
館長 広川 弘之
副館長 西本 一二三
(上組会長)
副館長 秋本 賢治
(下組会長)
管理人 松秋 一成
(会計兼務)
会計監査 村上 百合子
会計監査 梶谷 和伸

会館の使用は、管理人に申込んで下さい。
(電話 六七七九四三)



女性会だより



深町女性会 松本八重子

六月十五日、年間行事の一つであります一日親睦旅行に行ってきました。

参加者二十七名で、八時に深町を出発し、廿日市市吉和にあり、ウツド美術館、マイセン館をゆっくり鑑賞し、お昼前に「潮原温泉」に着き皆で楽しく会食をし、食後は温泉にゆったりとつかり日頃のつかれをいやして帰途につきました。

本日に楽しい一日を過ごしました。

※先月掲載した「きざりだんご」は亀谷庸子さんからのたよりでした。(編集室)

深町各種団体七月行事予定

- 小学校・幼稚園
 - 英語活動・安全点検
 - 地域看護実習生受け入れ
 - 集金日
 - びよびよハウス
 - クラブ活動
 - 貯金日
 - P.T.A役員会
 - 廃品回収(八〇〇)
 - 英語活動・学区児童会
 - 個人懇談会
 - 終業式
 - 女性会
 - 懇親会
 - 子ども会
 - 三菱ゆうわ会
 - ソフト・キック大会
 - 海水浴
- 上 九日
中 十日
下 十一日
第二水曜 十三日
第三水曜 十五日
第二日曜 十八日

第十四水明祭 はなやか二雨催

六月二十二日、如水館で十周年記念の水明祭が開かれた。「天の時、地の利、人の和」の三拍子そろった素晴らしい学園祭だった。

「きつかけは水明祭」をテーマに、若者らしい数々のイベントで学園は終日賑わった。編集室「ふかまちのまじ」

展望席

去る三月、A団体がアゴヒゲアザラシの「タマちゃん」を保護して、北海道・オホーツク海へ帰すため、「タマちゃん」を捕獲しようとして、ひと騒動の末失敗した。この団体は、「タマちゃん」は方向感覚を失って河川に迷い込んだと判断し、その保護を主張しているらしい。しかし、本当は「タマちゃん」にあっては「タマちゃん」に理屈抜きで一番住み心地の良いところを探して、その河川にやってきたのではないだろうかと思うのです。

そして、「タマちゃん」は一時姿を消しました。保護されることは、「タマちゃん」にしてみれば、はなはだ迷惑なことかも知れません。

我が家で飼っている犬と猫もある日どこからともなくやってきて、我が家に住み着きました。こんな事情でペットを飼っている人も多いと思います。この犬や猫にとって、最も住みやすく可愛がってくれる家だと感じて、我が家に来てくれたものとして理解しているところではあります。

その後、五月になって顔に釣り針が刺さった「タマちゃん」が発見されたが、埼玉県や国土交通省などは当面はそっと見守ることにした。またもやA団体の動きがありました。数日後、釣り針が自然に外れた「タマちゃん」が発見され、ホッとひと安心。

「親切という名のおせっかい、そつとしておく思いやり」
(相田みつを)

深小時代の思い出(7)

元深小学校長 坂井吉徳

「運動会」の巻

私が深小へ赴任(昭和三十年)してまもなく、秋の大運動会がありました。どんな種目を、どのようにやったかについては、全然憶えていませんが、二つだけとても印象に残っている話があります。

その一つは優勝旗の話です。当時は、運動会の後必ず、PTA、地域の団体役員、農協役員、教職員合同で、反省会兼懇親会を開催していました。お酒もかなり入り、ワイワイガヤガヤと話が盛り上がり、ついには、ある農協の役員さんから、色々と反省点や苦言やお褒めの言葉など戴きました。その話の中味は忘れませんが、私にはカチンと頭にくる言葉がありました。

私もお酒が入っていたし、若造なので怖い物知らずの勢いで「Aさん、深町になったのに、あの優勝旗は一世以前の物じゃないの。文句もいけど、言うぐらいなら、もつと立派な物を寄付したらどうだね」と言っていたらしいのです。確か、次の年の三月頃だったと思うのですが、Aさんが、とても立派な優勝旗を校長室に持ってきたら、私は、「しま」

私の地球サミット(4)

中組 安藤 志保

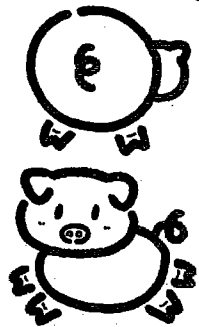


「世界の現状」

南アフリカを車で走っている、と、あちこちで、SAVE WATER, SAVE LIVES (水を大切に、命を大切に) という大きな看板が目にとまります。二日間訪れたジンバブエでは、泊まったホテルの洗面台にもこの言葉が書いてあり、それに続けて、「できるだけ、使う水の量を減らし、一人の命もムダにされることのないようにしよう、私たちジンバブエの人々が、生き残れるように、協力をお願いします」と書かれています。

日本では、水の節約という、ほんのちよっぴり得するかな? とか、「なんでも大切に」という気持ちの問題、とかだったります。ここには、「水の節約」と「命を守る」ということなんだ、とショックを感じました。実際、アフガニスタンの人から、「爆弾よりも、雨が降らないことのほうが怖い」という言葉をききました。爆弾もこわいけ

「先生、本当に言ったの?」の校長先生に私は小さな声で、「ハイ、でも呑んでいたの、元談のつもりでした」と言う。「わしが寄付する」と約束したんだから、ええじやろう」のAさんでもその旗は残っていると思えます。



二つ目は、豚と徒競走の話です。運動会の前日、宿直で寝ていると、夜中にガタガタ、ブーブーという音がするのです。怖いながら木刀を持ち出して、五米手前で「コラー」と脅しても知らんぷりです。月明りによく見ると、二百kgはあるかと思われる大豚でした。いくらお尻を押しても叩いても知らんぷりして、餌を探しています。

仕方がないので、屋敷さんを起こしに行きました。屋敷さんは、「確か花子やろ...」と言ったと思うと、「はよう帰れ」と、ポソと尻を叩くと、「豚はものすごい勢いで走り出しました。豚は、運動会のためにきれいに白線を引いていたコースを一直線。私も足には自信があったので、「待て」と追いかけてました。私と豚の徒競走は私の完敗で終わりました。

ど、爆弾はピンポイント、でも雨が降らなければ、村は全滅だ、と。アフガニスタンでは、降雨・降雪量が激減、世界的にも砂漠化が進んでいる原因のひとつは、地球温暖化があります。私たち、日本人も「爆弾よりこわいCO2(温暖化の原因)」をたくさん出しています。

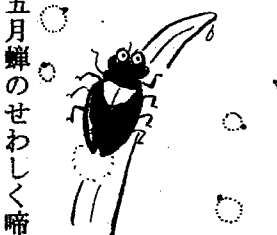


そして、日本は一見水が豊かですが、水を意識することがあまりないです。食糧というかたちで、大量の水を輸入していること、海外生産というかたちで、大量の工業用水を途上国で使用していること、「水」が今世紀、紛争の原因になっていくと予想されること、などとともに、私たちが世界でどんな位置にいるのか、そのつながりを一人ひとりもつともつと見つけていく必要があるのではないのでしょうか。ジンバブエの節水を呼びかける表示に

子供の頃が懐かしい

中之町 河野 強

日中の気温もぐんぐんあがり、黄緑の木の葉が日に日に伸び、青みを増してくるのが見える。若葉を透かして降ってくる光をさわやかに感じる。檜の木や、山ツバキの常緑樹の新芽が伸びだすと、さわさわと吹く風に古い葉がパラパラと音をたてて落ちてくる。秋の枯葉とちがいで、黄ばんだ青葉が道路一面に落ち、まるでジュウタンを敷いたように、奇麗に見える。春になると、古い葉を落とし新芽を芽吹く、いわゆる新旧交代の季節で、常緑樹の衣替えの季節というのだろう。唇の上での立夏を過ぎると、我々農家は、田圃の仕事、田植え準備の時季になる。



五月蟬のせわしく啼く声にせきたてられながら、田ぼとりを掘り田に水を張り、いわゆる田拵(タゴシラエ)のための水溜めである。



お風呂のお湯をためるのは最低限に。お風呂よりシャワーを。歯みがきや手洗いの間、水を出しっぱなしにしないように。水漏れはすぐに連絡を。トイレの水を流すのは必要な時だけに。ということも書いてありました。これに加えて最も大切なのは、「輸入品を買わないこと」だと思います。目先の損得で、安い海外生産品に引かれがちですが、これは、貿易の相手である途上国に大量の水を奪う、環境破壊を招く、などの負荷をかけるだけなく、私たち日本国内でも、海外生産による国内の空洞化、田畑の荒廃、自然破壊など、大きなものを失うことにつながるのです。

※一人の命もムダに...は、NONE IS WASTEDと書いてあります。大切にすること、節約するの対比で使われる言葉で、「ムダにしない」が文中で適切であったかどうか分かりませんが、英語ではものすごくシヨッキングな響きがあります。ヨハネスブルグ地球サミットに準備会合から関わり、サミット中は政府開場で活躍、今年に入ってから戦争直前のイラク訪問、世界水フォーラムに参加などしているNGOスタッフを招いての報告会を行います。興味のある方はご連絡ください。(電話六七一一七七九 安藤)

水路に落ちた常緑樹の落ち葉が詰まり、水を堰止められる。水利の流れを邪魔される。取り除けるのにひと苦労する。山あいの農家では、人知れぬ苦労があるものだ。ウグイスの啼く声に慰められながら、田の畦掛けに余念がない。「我が影に俳句を思い出しながら頑張る。矢張り腰は痛い。このところ、年々休耕田がふえ、荒地もふえてきた。農政に減反とはいえ、これから先、山間地農家はどうなるのだろう。心寂しさは隠せない。やがて田植えも終わり、六月中旬、夕暮れ時には螢が飛びかう季節へと替わって行く。螢の餌になる、鱒(ニナ)も大分ふえてきたし、今年はきつと多く飛べないか、あの神秘的な光が見られるだろう。

自然を相手の百姓は、やはり季節の移り変わりが楽しみの一つである。稲の早苗の植えられた田圃の上を、無数に飛びかう螢の光が水面に映り、光の乱舞が幻想的に見えた。楽しかったが、水田の少なくなつた現在、もうあの夢のような光景は二度と見られないかも知れない。子供の頃の昔が懐かしく思い出されるが、時代の流れとはいへ寂しいことである。願わくば何とか農村の風物詩として残したい物の一つである。

平成15年度 サンライズ大池 開催日時 七月十九日(土) 十八時~二十時 開催場所 サンライズ大池 (深町五八三番地)

サンライズ大池では、今年も恒例の夏祭りを開催します。昨年同様、いろいろなイベントや屋台などをよっていらしてお待ちしております。皆様お誘い合わせのうえ、お気軽におこしください。サンライズ大池の利用者の皆様や私たち職員とともに、楽しいひとときを過ごしましょう。

※本年度より、飲食物等について一部有料になります。